

新規事業採択時評価結果（令和元年度新規事業化箇所）

事業の概要

事業名	地域高規格道路 I Cアクセス道路 市道 瀬戸161号線 瀬戸工区	事業区分	地方道	事業主体	広島県 福山市
起終点	自：広島県福山市瀬戸町大字山北字赤羽 至：広島県福山市瀬戸町大字山北字宮ノ峠	延長	0.2 km		
事業概要	福山市を東西に結ぶ一般国道2号は、直轄国道の渋滞ランキングに毎年ランクインするなど、慢性的な渋滞が課題となっており、国土交通省により地域高規格道路倉敷福山道路の整備が行われている。本路線は一般国道2号と倉敷福山道路（仮称）瀬戸 I Cを連絡する1次アクセス道路である。				
事業の目的、必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>福山道路及び本路線の整備により、新たな交通ネットワークが構築されることで、渋滞の解消・緩和、物流・人流の拡大を図り、市民生活の安全性や利便性の向上及び社会経済活動の活性化に寄与する。</li> <li>福山道路の整備に伴い、事故の発生や交差点形状に課題のある交差点（赤坂バイパス早戸ランプ交差点）が閉鎖され、また、本路線の整備により新たに交差点を設けることで、地域住民の安全性の向上が期待される。</li> </ul>				
全体事業費	約6億円	計画交通量	3,600～9,300台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見  
 本路線が接続する福山道路については、商工会議所、備後地区建設促進協議会等から早期開通を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見  
 -

事業採択の前提条件  
 費用対便益：便益が費用を上回っている。  
 手続きの完了：市道認定（2018年（平成30年））

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.6	総費用 4.7億円 (事業費:4.6億円 維持管理費:0.1億円)	総便益 7.7億円 (走行時間短縮便益: 4.9億円 走行経費減少便益: 2.2億円 交通事故減少便益: 0.6億円)	基準年 令和元年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.4 (交通量-10%)	B/C=1.9 (交通量+10%)		
		事業費変動	B/C=1.5 (事業費+10%)	B/C=1.8 (事業費-10%)		
		事業期間変動	B/C=1.6 (事業期間+20%)	B/C=1.7 (事業期間-20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	福山道路及び本路線の整備により、新たな交通ネットワークが構築され、交通の転換が図られることで渋滞の解消・緩和が期待される。		
		事故対策	◎	福山道路の整備に伴い、交差点形状が悪く、事故が発生するなど課題となっている赤坂バイパス早戸ランプ交差点が閉鎖され、また、本路線の整備に伴う新設交差点設置により地域住民の安全性の向上が期待される。		
		歩行空間	○	自転車歩行者道の整備により、自動車と自転車・歩行者との錯綜を解消し、安全な通行空間が確保される。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	福山道路及び本路線の整備により、一般国道2号の渋滞を避けるため生活道路へ流入している通過交通が排除され、住民生活の安全性及び利便性の向上が図られる。		
		地域経済	◎	福山道路の整備により、福山西 I Cと福山港までの交通ネットワークが強化され、時間短縮、定時性確保による物流・人流の拡大が期待でき、本路線による福山道路へのアクセス性が向上することで、社会経済活動の活性化に寄与する。		
		災害	○	山陽自動車道が通行止めになった場合、代替路である福山道路へ本路線を経由してアクセスすることができ、災害時の交通ネットワークの確保に繋がる。		
		環境	-	注目すべき影響はない。		
地域社会		○	福山道路は放射・環状型幹線道路網を構成する路線であり、本路線の整備によって福山道路へのアクセス性が向上することによって、放射・環状型幹線道路網の利用促進が図られ、福山都市圏での効率的な交通処理に寄与することが期待される。			
事業実施環境	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画決定「3・4・659号瀬戸連絡線」：2001年（平成13年）</li> <li>事業認可：2019年（令和元年）9月予定</li> </ul>				

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。